# 日本人の忘れ物

遠　藤　　均

星槎道都大学研究紀要

経営学部

第 2 号

2021 年

*The Bulletin of Seisa Dohto University, Faculty of Management*
*No.2, 27－37, 2021*

# 日本人の忘れ物

遠　藤　　均

要約

新型コロナウイルスは，さまざまな社会問題を引き起こし，多くの人たちを苦境に陥れた。そのさなか，日本人をふくめ，現代人の価値観を象徴する痛ましい事件が勃発する。

本稿では，この出来事を出発点とし，そこから日本国憲法第13条における個人の尊厳や基本的人権について論じ，現代の典型的な価値観の問題点を考究していく。

最後に，それらを踏まえ，私たちが目ざすべき社会のあり方について模索する。

## 【序】

日本における，新型コロナウイルスによる死者数は，2020年11月27日の時点で，2087人に達っした。

それにともない，痛ましいことに自殺者が急増している。

2020年10月の時点で，自殺者は2153人。それまでの新型コロナウイルスによる死者数を上回ってしまった。

異変は，そればかりではない。

2020年10月の自殺者数は，前年同月に比べ，男性が22％増加したのに対し，女性は83％も増えたのだった。(01)

なぜ，女性の自殺者が，きわだって増えたのだろうか。

「女性は宿泊，飲食，小売りといった業種にパートタイムで就いている割合が高く，コロナ禍による解雇の影響を強く受ける」(01) からだという。

## 【日本人の忘れ物　①】

2020年11月16日の夜明け前。新型コロナウイルスにより数多が仕事をなくし，みずから命を絶つ人が絶えないさなか，東京渋谷区幡ヶ谷のバス停で事件は起こった。

日ごと深夜に来てはベンチに座り，始発までに新宿方面へ立ち去る路上生活者・大林三佐子さん（64）が，息絶えていたのである。

死因は，頭部に強い衝撃を受けたことによる外因性くも膜下出血と診断された。

いったいだれが，こんな酷いことをしでかしたのか。

事件から5日後のこと。とある中年男性が母親につきそわれ，近くの交番に出頭する。事件現場から800メートル離れたマンションに住む，資産家・吉田和人容疑者（46）だった。

いったい，犯行の動機は何だったのか。

彼は，こんな供述をしている。

「自分はボランティアでゴミ拾いをしていて，彼女が邪魔だった。（犯行）前日の散歩の途中，『お金を渡すからバス停から移動してほしい』と話をしたが，聞き入れてもらえなかった」(02)

「断られて腹が立ったので，石を入れた袋で殴った」(03)

「痛い思いをさせればあの場所からいなくなると思った」(04)

要するに，吉田は，「以前から，いつも深夜になるとバス停のベンチで寝ていた大林さんを目障りだと感じていて，犯行に及んだ」(05) というのである。

なんと独り善がりで尊大な犯行動機だろう。

ひるがえって，被害者の大林三佐子さんは，どんな方だったのか。

広島県出身で，若いころは，アナウンサーを目ざし，その後，大手百貨店で販売スタッフとして働いていた。

10年前，広島から上京したが，定職には就けず，派遣労働者となる。そして，おもに，スーパーなどで試食を提供するなど，日払いの仕事をいくつも掛け持ちし，懸命に働きつづけていたのだった。

けれども，派遣労働者の生活は，きわめて不安定である。いつも仕事があるとはかぎらない。しかも，病気になってしまえば，収入はたちどころに絶たれてしまう。

彼女も，働けなくなって，家賃を滞納せざるをえない状況に追いこまれたことがある。

すると，なんということだろう。

ある日，帰宅してみると，アパートの鍵が勝手に差し替えられ，持ち物が外に放り出されていたのである。

突然，住む家を失った大林さんは，路上生活を余儀なくされてしまう。事件の，およそ３年前の出来事だった。

が，彼女は，それでもめげることはない。

路上で生活をしながらも，派遣先のスーパーで，試食の販売員をつづけ，糊口を凌ぐ。まさに，綱渡りのようなギリギリの生活であった。どれほど心細く，不安な日々を送っていたことだろう。

そんな彼女に，一連の新型コロナウイルス騒動が，最後のとどめを刺す。2020年２月以降，新型コロナウイルスの影響で対面販売が自粛され，とうとう仕事をも失ってしまったのである。

こうして，切れかかっていた命綱が寸断されてしまう。(06)

職業不詳の路上生活者となった大林さんは，無慈悲にも，突如，人生に幕を下ろされてしまったのである。

所持金は，わずか８円であった。

10年来の同僚だった女性によれば，大林さんは，スレンダーで可愛く，40代でとおるほど。若いころは，さぞかしモテただろう，という。

彼女は，こう話す。

「大林さんが『あれもこれもキャンセルされて，もう生活できません』と登録会社の窓口で訴えるのを聞いたこともあります」(06)

「最後にスーパーで見かけたとき，大林さんは乳酸菌飲料の試飲を小さな男の子に勧めていました。若いパパとチビっ子に試飲を渡して楽しそうでした。別れるとき，男の子に手を振っていました」(06)

「私と同じくらいの身長（※約150 cm）の大林さんが，どうやって座っていたのかと驚きました。よほど疲れていない限り，あのベンチでは眠れません」(06)

「あんなに話し好きだった人が，こんなに狭い場所で，一人でポツンとされていたのかと思うと可哀そうで……」(06)

大林さんの身元が確認できたのは，持ち物に一枚の名刺大カードがあり，そこには親類の連絡先などがびっしりメモされていたからであった。

捜査関係者はいう。

「弟とは10年ぐらい音信不通だったようだが，助けを求めるよりも迷惑をかけたくない気持ちの方が大きかったのかもしれない。所持品の中には，電源の入らない携帯電話もあった。メモもそうだが，『社会とつながっていたい』という思いがにじみ出ているようで，胸が苦しくなった」(07)

1980年代のこと。横浜の中学生グループがホームレス襲撃をくり返し，死者も出ていた。そのとき，地元の地下街の商店主らは，事件の原因を話し合う場で，こんなことを口にした。

「殺してくれてせいせいした」(04)

「彼らは人間の姿はしているが人間ではない」(04)

野宿者襲撃に関わったある少年少女の一人は，その動機をこう話した。

「ゴミを掃除しただけ」(04)

約350人の野宿生活者へのアンケート（2014）では，約４割の人たちが襲撃を受けた経験があると回答している。その内訳は，殴る，蹴るのほか，花火を打ちこまれたり，煙草の吸殻を投げ込まれたりもしていたのであった。(06)

NPO法人「自立生活サポートセンター・もやい」の大西連理事長は，この事件についてこう語る。

「今回，近隣の大人が暴力に及んだのは，弱い立場の人を差別するまなざしが社会に浸透している現実を象徴的に示すものだと思います」(06)

「当たり前のことですが，ホームレスの一人ひとりにも名前があり，人生があり，殴られれば痛い。しかし相手がホームレスだと認識した瞬間，生身の人間であるという想像が働かなくなる。これは深刻な差別です」(06)

「大林さんが仮眠に使っていたバス停のベンチもそうですが，都心部では寝転べない構造のベンチが圧倒的に多くなり，そこに身を寄せていたホームレスの人が居づらい環境や空気を醸すツールになっています」(06)

献花に訪れた女性はこう訴える。

「『邪魔だからいなくなって』という理由で殴ってよいわけがないんです。新型コロナウイルスの感染拡大で，

今や誰もが生活困窮に陥るかもしれないと思うと，身につまされる。大林さんのような人たちにも寄り添える社会であってほしいです」(07)

この事件は，明らかに「個人の尊重」や「基本的人権」を軽視することから生じたといえよう。

つぎに，これらを深く理解するために，日本国憲法第13条を紐解いていきたい。

## 【「個人の尊重」の二つの意味】

日本国憲法は，国の最高法規であり，およそこれに反する法律や命令などは，その効力を有しない（**※憲法第98条**）。

では，日本国憲法の目ざす最終ゴールとはなんだろう？

他人の権利（**公共の福祉**）を侵さない範囲内における「個人の尊重」である（**※憲法第13条**）。

**※憲法第13条…「すべて国民は，個人として尊重される。生命，自由及び幸福追求に対する国民の権利については，公共の福祉に反しない限り，立法その他の国政の上で，最大の尊重を必要とする」。**

これに対し，日本国憲法の核心は，「個人の尊重」ではなく，「日本国憲法の三大原則（**基本的人権の尊重，国民主権，平和主義**）」ではないかという反論がなされるかもしれない。

だが，「日本国憲法の三大原則」も，憲法の中核である「個人の尊重」を目的とするものであり，そのための手段なのである。

すなわち，「個人の尊重」という究極の目的を実現するためには，その手立てとして……。

①基本的人権（**平等権，自由権，社会権，請求権，参政権**）が尊重されねばならない。

②国民主権（**主権在民，民主主義**）によって，個々人の意見が政治に反映される必要がある。

③平和主義（**戦争の放棄**）により，戦争のない平和な社会（**国家**）が実現されねばならない。

ということなのである。

ところで，「個人の尊重」には，「人はみな同じ」と，「人はみなちがう」という相反する二つのことが含まれている。

①「人はみな同じ」……人はだれでも生きる価値があり，かけがえのない個人として大切にされるべきである。

②「人はみなちがう」…人には個性があり，だれもが同じではない。だから，互いのちがいを共に認めあって生きるべきである。(08)

②は，多様性の尊重といってよい。

ところが，私たち日本人は，同質性を偏重するあまり，多様性を排除する傾向があるのではないだろうか。

そして，異質な人間を軽蔑し，非難し，ときにはいじめに発展することさえまれではない。

ところで，歴史上，「個人の尊重」を究極まで体現した人物は，だれであろう？

私は，思う。マザー・テレサは，まさしくそのひとりである，と。

**※憲法98条……①「この憲法は，国の最高法規であって，その条規に反する法律，命令，詔勅及び国務に関するその他の行為の全部または一部は，その効力を有しない」**

**※日本国憲法第14条**

**「すべて国民は，法の下に平等であつて，人種，信条，性別，社会的身分又は門地により，政治的，経済的又は社会的関係において，差別されない」**

**門地……家柄**

**※日本国憲法第25条**

**「すべて国民は，健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。**

**2　国は，すべての生活部面について，社会福祉，社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」**

**→国際人権規約第12条**

**「(1)この規約の締約国は，すべての者が到達可能な最高水準の身体及び精神の健康を享受する権利を有することを認める」（以下省略）**

**※日本国憲法第98条**

**この憲法は，国の最高法規であつて，その条規に反する法律，命令，詔勅及び国務に関するその他の行為の全部又は一部は，その効力を有しない。**

**詔勅……天皇の発する公式文書の総称**

つぎの『私と小鳥と鈴と』（金子みすゞ）は，「個人の尊重」における「人はみなちがう」を見事に表現しているといえよう。

【みんなちがつて，みんないい】

私が兩手（りょうて）をひろげても，
お空はちつとも飛べないが，
飛べる小鳥は私のやうに，
地面（ぢべた）を速くは走れない。

私がからだをゆすつても，
きれいな音は出ないけど，
あの鳴る鈴は私のやうに，
たくさんな唄（うた）は知らないよ。

鈴と，小鳥と，それから私，
みんなちがつて，みんないい。(09)

【薬害エイズ事件】

スモン事件においても，1977年，被告国と製薬企業は薬害の再発防止を誓い，薬事二法（**薬事法の改正と医薬品副作用被害者救済基金法の制定**）も成立。

だが，皮肉にもちょうどその頃，後に薬害エイズ事件を引き起こす危険な非加熱濃縮製剤の大量輸入がすでに始まっていた。

その結果，日本の血友病患者約5000人のうち，実にその4割に相当する約2000人が，HIVに感染するという未曾有の悲劇をもたらすことになる。(10)

1985年夏，血友病患者の団体が非加熱製剤の早期回収を求めたのに対し，当時の厚生省生物製剤課長・松村明仁は，こう言って要請をはねつけた。

「回収はちょっとだめだ。製薬会社に損害を与える」(11)

この言葉の意味するところは，「あなたたちの命や健康より，企業の利益のほうが大切だ」ということであり，明らかに，人間の命や健康よりも企業の利潤や自分たちの天下り先保護という私利私欲が優先される価値判断が，当然のようになされている。

この課長はまた1985年8月1日，後にHIV訴訟の原告となる男性に対し，「輸入製剤に汚染はないんだ」(48)と繰り返した。

男性は「感染者が出ているではないか」(12)と詰め寄る。

だが課長は取り合おうとさえしない。

そこで男性は当時回収騒ぎがあった毒入りワインを引き合いに出してなおもくいさがった。

ところが課長はこういって突っぱねたという。

「ワインは国民全体の問題だが，血液製剤は使用している人が限られている」(12)

彼は企業や私利私欲のために黙殺したといえよう。かけがえのない人命ばかりか，日本国憲法（**第13・25・97条**）や日本も批准（ひじゅん）している国際人権規約（**第12条**）が保障する基本的人権さえも。

1996年10月4日，松村明仁は，感染と発症による死亡を予見できたのに，非加熱製剤の使用を控えさせる行政上の注意義務に反してなんの対策もとらず，使用を放任したことにより患者を死亡させた過失があるとされ，業務上過失致死容疑で東京地検に逮捕される。

そして2001年9月28日，松村被告は，「危険な非加熱製剤の販売中止・回収などの措置を取り，HIV感染，エイズ発症による死亡を防止すべき義務があった」とされ，この“不作為”により，禁固一年，執行猶予二年（**求刑・禁固三年**）の有罪判決を受けた。

これを不服とする松村被告は，控訴したが，2005年3月25日，東京高等裁判所は一審判決を支持し，これを棄却する。

松村被告はさらに上告したが，最高裁判所は原判決を支持し，これも棄却。2008年3月3日，一，二審の有罪判決が確定した。

これは，行政の責任が，担当者個人の過失として刑事責任まで追及された初めてのケースであり，新たな判例が生まれたという意味で，画期的な判決であったといえよう。

だが，非加熱製剤の投与を受けた502名（**※1998年5月末時点**）の犠牲者たちの尊い命は二度と取り戻すことはできないのである。

なお，非加熱製剤を主に製造していたミドリ十字の当時の社長・松下廉蔵（**※禁固一年六カ月の実刑確定**）は，サリドマイド裁判和解のとき厚生大臣に全権を委託され，厚生省の過失や対応のまずさを被害者とその家族に謝罪し，薬害の根絶を堅く約束した厚生省薬務局長その人であった。

## 【外的世界の乱(みだ)れ＝内的世界の乱れ】

外的世界の問題は，内的世界の問題の反映である。

したがって，なにか外的問題(**環境問題などの社会問題**)が発生するのは，たいてい私たちの内的世界に問題があることが多い。

その内的問題とはなにか？

健康や生命(いのち)や環境よりも，企業や個人の利益のほうを優先するという利己主義，物質的価値中心主義，人間中心主義といった価値観の大きなゆがみである。

大切なのは，問題の外面にふたをすることではけっしてない。

内的な問題として真摯(しんし)に受けとめ，それを通して，私たち自身の内的問題点や未熟を克服することなのである。

そうすれば，問題は存在する必然性や必要性を失い，おのずから発生しなくなるにちがいない。

長年にわたって水俣病問題に深くたずさわってきた原田正純(まさずみ)（**熊本学園大学教授**）は，水俣病の真因(しんいん)をこう説く。

「水俣病事件30年のあいだに，ずっと問われつづけているのは“真の水俣病の原因”であると私は考えている。

たしかに，水俣病の直接の原因は熊本大学医学部水俣病研究班によって，少なくとも1959（**昭和34**）年10月に『有機水銀中毒』と明らかにされたし，1968年9月には政府によっても『熊本水俣病は，新日窒（**※現　チッソ**）水俣工場のアセトアルデヒド酢酸設備内で生成されたメチル水銀化合物が原因である』と断定されている。

しかし，水俣病事件史全体をみるとき，それだけでは説明のつかないもっと巨大な原因があるのではないかという思いにかられる。

水俣病の原因のうち，有機水銀は小なる原因であり，チッソが流したということは中なる原因であるが，大なる原因ではない。

水俣病事件発生のもっとも根本的な，大なる原因は，“人を人と思わない状況”いいかえれば，人間疎外，人権無視，差別といった言葉でいいあらわされる状況の存在である。

これが，1960年から水俣病とつきあってきた私の結論である」[13]

すなわち，法的にいえば日本国憲法の中核である第13条の「個人の尊厳（**尊重**）」を踏みにじる「人間疎外，人権無視，差別」こそが，水俣病をひき起した根本原因だということなのである。

けれども，これは水俣病にかぎったことでは絶(た)えてない。

たとえば，公害であれば，足尾鉱毒(あしおこうどく)事件や福島第一原子力発電所事故による災害。

薬害であれば，サリドマイド事件やスモン事件，薬害エイズ事件。

その他，紛争や戦争，ジェノサイドなど，非人道的問題は，ここから派生(はせい)する。

私の言葉でいえば，価値観のゆがみが原因で起こる価値観病にほかならない。つまり，つきつめれば，価値観のゆがみこそが，「人間疎外，人権無視，差別」をもたらす根本原因なのである。

ゆえに，これらの問題を解決するには，外的世界の浄化という対症療法だけでは十分でない。

内的世界の浄化(じょうか)という根治療法が必要不可欠である。

## 【日本人の忘れ物　②】

物質文明を極める日本の首都・東京。

その華やかな街の路上に，ひとりの老人が倒れていた。

多くの人が，そこを通りかかる。

が，だれひとりとして助けようとはしない。

その荒涼(こうりょう)たる光景を目(ま)のあたりにして，マザーは語った。

「日本人は勤勉で工夫心もあり，すばらしい国民ですが，残念なことに，人間としてもっとも大切な何かを忘れ，失ってしまっているようです」[14]

たしかに，戦後の日本人は，物質的には豊かになった。

けれど皮肉なことに，その物質的豊かさに反比例し，精神的には貧しくなってしまったのではないだろうか。

けっか，自殺率はトップレベル。

人と人との結びつきも薄れていった。

家族の絆(きずな)も弱くなり，愛情に飢えて非行に走る子どもたちをも生みだしてしまったのである。

日本のみならず，ヨーロッパやアメリカといった先進国に共通する問題点について，マザーはつぎのように述べている。

「今日の人々は，愛に飢えています。愛だけが，孤独とひどい貧困に対する唯一の答えとなるのです。

飢える心配をする必要のない国もあります。けれど人々は，ひどい孤独とひどい絶望，ひどい恐怖心にさいなまれています。彼らは，だれからも求められていない

という拒絶される悲しみと，救いようもなく，希望のかけらもない気持ちを感じているのです。こういう人たちは，ほほえむことすら忘れてしまっています。そして，人間同士のふれあいの美しさも忘れてしまっています。人の愛など，とうの昔に忘れ去っています。こうした人たちには彼らのことをわかろうとし，大切にしてくれるだれかが必要なのです」(15)

## 【物質的豊かさと精神的豊かさのジレンマ】

「幸福＝物質的豊かさ（**お金**）」

こう妄信し，ひたすら物質的価値を追いつづける人たちが少なくない。

ところが，皮肉にも，物質的価値を深追いするほど，精神的豊かさから遠ざかってしまう傾向がある。指の間から，白砂がスルスルとこぼれ落ちるように。

たしかに，お金が多いほど，欲しい物はそれだけたやすく手にはいる。

このことは，一見いいことずくめに思えるかもしれない。

だが，およそ物を手にいれる喜びひとつとってみても，たやすく手にするほど，それだけ心の琴線に強く響かなくなる。というのは，獲得過程における憧憬や葛藤，苦労が大きいほど，手にしたときの喜びが大きくなるものだから。

このことは，物質的価値の獲得だけに当てはまるわけではない。

恋愛や目標達成の喜びなどについてもいえよう。

食べすぎれば健康を損ない，安逸もむさぼりすぎればボケてしまう。

欲望もかなえられぬという選択肢や制約があってこそ，はじめて健全なものとなりうる。不自由があってこそ，はじめて自由が価値をもつように。

もういちど言おう。

たとえ，あり余るほどのお金をもち，物質（**肉体**）的価値をいくらでも手にいれることができる境遇にあったとしても……。

必ずしも幸福になれるわけではない。

いや，それどころか，精神的幸福を遠ざけてしまう恐れすらある。

## 【幸福幻想からの目覚め】

今日の日本人は，あらゆる価値を「お金」ではかろうとする傾向があるのではないだろうか。

けれども，これは非常に偏った価値観である。

お金（**物質**）さえ手にすれば幸せになれるとかたくなに信じている人。

必要を超えて，それどころかあり余るほどのお金（**物質**）をもちながら，「もっとお金がなければ幸せになれない」と思いこんでいる人たち。

彼らは，物質や金銭の奴隷となってしまっている。

けして，みずからの人生の主人公（**主役**）にはなりえていない。

外的世界（**事実，境遇など**）が自分の幸福を決めると思いこみ，ひたすらそればかりを追い求め，内的世界（**価値観，人格など**）をおろそかにしてしまう。

そういう人は，いつまでたっても永続的幸福にいたることはできない。

せいぜい，他人と比較して，自分のほうが恵まれていると優越感にひたる卑しい自己満足しか味わえないだろう。

なぜなら……。

幸福は，外的世界の獲得数を競うレースによって決まるものではない。

内的世界（**価値観，人格など**）によってこそ，最終的に決定されるものなのだから。

ブランド品の買いあさり，ホストクラブ通いなどを赤裸々に描いた人気エッセイ・『ショッピングの女王』，『ビンボー日記』などで知られる中村うさぎ。

彼女はそれ以外に，顔を 12 か所も整形したり，デリヘル嬢として風俗店に勤務したりと，まさに破天荒な生き方で話題を集める。

ところが，2013 年，入院中に心臓が 10 分間も止まり，３日間意識が戻らなかった。

死から生還した彼女は，みずからの人生をふり返ってこう語る。

「地獄から抜け出そうとして，欲望のおもむくままブランド品を買ったり，美容整形をしたけど，心は埋められない。ゴールのない砂漠をさまよっているようなものなのよ」(16)

物質的価値や肉体的価値，他人との競争といったものに取りつかれると，どうなるだろう？

金銭や肉体美，装飾品といった外的価値のあくなき追求という愚かなレースに駆りたてられてしまう。

これでは，いつまでたっても真の満足にはいたらないだろう。

## 【利便性が駆逐した価値】

自分一人のためならば，できるだけ労力と時間を節約したいと思うだろう。

しかし，それが他人のためならば，とりわけ愛する人のためならば，手間ひまかけることが，大いなる価値をもつことがある。そうすることが，相手に対する愛情表現ともなりうるのだから。

現代は，科学技術の発達にともない，なにごとにつけ労力と時間がかからなくなった。食事にしても，冷凍食品を電子レンジでチンすれば，それなりにおいしい料理ができあがる。

しかし，ひるがえってみれば，科学技術が発達するにつれ，手間暇かける愛情表現が，それだけ難しくなったともいえよう。

けっか，子どもたちは，親に対する感謝や愛情をいだく機会がめっきり減ってしまったのではないか。

マザー・テレサはいう。

「ヨーロッパや合衆国に出掛けて行く度に，裕福であるはずのその国でひどく不幸な人々に出会い，心が痛くなるのです。物質的に裕福であるがゆえに，家庭は崩壊し，子どもたちは親から見捨てられているといった現実を，何度も目の当たりにしているからです。今，このような先進国の人々が取り組まなくてはならないのは，自分の血を分けた家族のために働き，離れかけている夫婦の心を結び，子どもたちが両親の愛をたくさん受けることのできる家庭を作ることです。

物質的には豊かかもしれませんが，精神的な欠乏こそが問題なのです」(17)

現代文明は，物質的価値や快適価値を実現してくれる科学技術を礎とする。

ところが，それを実現するほど，精神的価値と幸福を見失わせてしまうという皮肉な結果をもたらしてしまった。

しかも，なくした物をカバーするために，ますます即物的な価値の追求に汲々としていく。

そして，なおさら滋味豊かな生きがいや生きる意味を見失ってしまった。

この悪循環（**物質的価値への志向→精神的価値の喪失→物質的価値への志向の増大**）は，いまや地球環境の限界点を突破。他の動植物のみならず，人類をも急速に絶滅へと導く。

いまこそ私たちは，好むと好まざるとに関わらず，価値観の大転換を行うべきギリギリの時にきているのではないだろうか。物質的価値中心主義（**拝金主義，利己主義，人間中心原理主義，等**）のベクトルから，精神的価値中心主義（**愛至上主義，利他主義，等**）のベクトルへ。

相対性理論で有名な理論物理学者・アルバート・アインシュタインは，語る。

「現代人のモラルが恐ろしく荒廃している原因は，生活が機械化して人間性を失っているからだと思います。

それは科学技術の悲惨な副産物です」(18)

アパルトヘイト政策への抵抗運動に身を捧げ，27 年間ものあいだ獄中で過ごしたネルソン・マンデラ（**元南アフリカ大統領**）は説く。

「かつて思いやりのある社会の探求を駆り立てた人と人との連帯感は，他者を気遣わない物質主義と，即時に欲望を満足させようという社会的目標の追求に取って代わられてしまった。少なくとも，それらによって脅威に晒されている。

今の時代に取り組まなければならないことのひとつは人間の連帯感，つまり『お互いのために私たちは世界に存在する』，『他者のおかげで私たちは存在する』，そして『他者を通じて私たちは世界に存在する』という認識を国民の間に再び浸透させることだ」(19)

「思いやりの文化をこの社会に再び築かなければならない」(19)

## 【だれも幸福になれない価値観】

有限な物質的価値（**金銭的価値**）を奪いあうシステムでは，物質的価値に恵まれる人びとは少数にすぎない。

しかも，物質価値の果てしない追求は，地球の有限な資源を食いつぶし，地球環境に深刻なダメージを与えつづけている。

2055 年に，地球人口が現在の 78 億から 100 億に急増する（**※毎日，約 22 万 7000 人増えている**）との予想をも鑑みれば，一刻も早くそのようなシステムや価値観からの脱却を図らねばならない。

たしかに，これまでは，地球環境の時限爆弾が爆発する前にこの世を去り，勝ち逃げに成功した人もいたであろう。

だが，未来に生きる人びとは，そういうシステムや価値観のもとでは，何人も勝者になることはできない。

ところが実際は，欲に目がくらみ，おのれの醜い欲を満たすためだけに生きているような人たちが，世界中で

跋扈(ばっこ)している。

だから，彼らの病んだ価値観を変え，闇から目を覚まさねばならない。

けれど同時に，私たち自身が真実に目覚め，身近なところから現実を変革するアクションを起こしていく必要がある。

## 【愛をもって与えあうのか，憎しみによって奪いあうのか】

ある物を分割するのに，愛をもって与えあうのか，それとも憎しみによって奪いあうのか。

同じ分割するにしても，結果はまるでちがってくる。

与えあえば，ともに幸福となろう。

しかし，奪いあえば，奪われる側は幸福を脅(おびや)かされる。

奪った側も，利己的行いによって心が貧しくなり，それだけ精神的幸福から遠ざかるにちがいない。

そうであるとすれば，私たちがとるべき道は，与えあう利他的生き方なのか，奪いあう利己的生き方なのかは明らかである。

つまり，奪いあう物質的価値中心主義，拝金主義，利己主義においては，自己の幸福と他者の幸福は反比例する。

そしてついには，共倒れとなって，破滅への階段をもろとも転げ落ちるであろう。

いっぽう，与えあう精神的価値中心主義，愛至上主義，利他主義においては，自己および他者の幸福感を同時に高めていくことができる。マザーがよく，“You can share the joy of loving．**(あなたは愛の喜びを分かち合うことができるのです)**”という言葉を口にしていたように。

マザーは説く。

「お金に執着している人…は，ほんとうは，とても貧しい人なのだと思います。もし，このような人が，お金を他人への奉仕のために使うなら，その時こそ富める者に，大きな富者になるのです」[20]

「先進国にも，一つの貧しさがあります。それは，お互い同士，心を許していない貧しさ，精神的貧困，淋しさ，愛の欠如(けつじょ)からくる貧しさと言っていいでしょう。愛の欠如こそ，今日の世界における最悪の病です」[21]

「私は初めてインドの地に降り立った時，道端で埃(ほこり)にまみれて死んでいこうとしている人々が，末期(まつご)の水と愛を求めて弱りきった手を伸ばしている姿に激しい衝撃を受けました。いま日本にきて街を歩き，日本の方たちと話をして，私はインドの地で体験したのと同じ，あるいはそれ以上の衝撃を感じています。日本では死にゆく人が路傍(ろぼう)に捨てられていることはありませんが，インドで道に横たわる人たち以上にたくさんの人が，心の傷を他の人たちとの愛のつながりの中で癒されたいと，悲鳴をあげているのを感じたからです。日本の人たちにとり，こうした人たちと共に，心を癒すことに力を注ぐことは，緊急で重大な使命ではないでしょうか」[22]

## 【ある日本人との対話】

マザー・テレサが来日し，岡山で講演をしたとき，ある日本人男性が質問した。

「薬を…なぜ死ぬに決まっているような人たちに与えるのですか。それは無駄ではありませんか」[23]

マザーは答えた。

「死を待つ人の家で息を引き取る人の多くが，臭い，汚い，あっちに行けと邪魔物扱いにされてきた人です。望まれずに生まれてきたという悲哀をもっている人がほとんどです。生きていても，死んでいても同じ，誰からも関心をもたれず，見捨てられていた人も少なくありません。その人たちが，生まれてからこのかた，飲んだこともないような薬を惜しげもなく与えられ，これまで受けたこともない手厚い看護を受けて，数時間後には息を引き取っていきます。

この人たちは，死ぬとき，必ずといっていいほど，『ありがとう』といって死ぬんです。

それは本当に美しい光景です。つまり，生み捨てた親を恨み，冷たかった世間を呪い，助けてくれなかった神仏を呪っても不思議ではなかった人々が，恨みや呪いではなく，感謝して死んでいくのです。それは感動的な光景です。

それらの人々が呪いではなく，感謝して死ぬことができるのだったら，それに使われた薬も人手もちっとも惜しいとは思いません」[23]

質問した男性は，薬の物質的価値のみに着目(ちゃくもく)し，死を待つ人への投薬(とうやく)は無駄であると判断した。

いっぽう，マザーは，薬の物質的価値のみならず，むしろ薬が橋渡しする精神的価値を重視し，死を待つ人へ薬を惜しみなく与えたのである。

【幸福感のベクトル】

ブッダには，アヌルッダという盲目の弟子がいた。

当時，彼らが着ていたものといえば，道端に捨ててある布を拾い集め，縫いあわせてつくったパッチワークの粗末な衣である。アヌルッダは目が不自由であるため，縫うことはできても，針に糸を通すことがなかなかできない。そこで彼は，大きな声でまわりに呼びかけた。

「福徳を求めたいと思う人は，わたしのために針に糸を通してほしい」(24) ※❶

すると，針を通すばかりか，布を手にして縫いはじめる者がいた。ブッダその人である。

恐縮したアヌルッダは，とまどいながらもブッダに問うた。

「世尊は福徳円満していられるではありませんか」(24) ※❷

ブッダはこたえて言う。

「世間に福徳を求める者の中で，わたしほど切に求めている者はいないであろう」(24)

仏陀もマザー・テレサも，人間である以上，私たちと同様，幸福を追求することに変わりはない。

しかし問題は，なにに幸福を求めるかということなのである。

「自分が幸福を得るためならば，他者を犠牲にしてもかまわない」

こう考えるのか，それともマザーのように，「愛する他者のためならば，自分が犠牲になることさえいとわない」と考えるのか。

両者はともに，幸福の追求という点では同一である。

しかし，そのベクトルは180度異なり，生じる結果もまるで違う。

そして，前者のような，今日の世界に蔓延する利己主義は，克服されるべきものであると考えられる。

**※❶福徳・・・・・智慧以外の善行とそれによって得られる功徳。**

**※❷世尊・・・・・ブッダに対する敬称。**

**福徳円満・・・・・福徳が十分に備わっていること。**

【すべての人が生き生きと生きることのできる世界を求めて】

私たちは，大人や子どもを含めて，だれしもが幸福になることを望んでいる。

これには例外がないといって過言ではない。

たしかに，幸福を求めていないと公言する人もいる。

けれども，そういう人は，心底，幸福を求めていないのではない。

幸福を求めて得られなかったつらい経験から，幸福を求めることに疲れたり，恐れたりしているだけではないか。失望の痛みを味わいたくないがゆえに。

そうであるなら，そういう人もまた，本心では，幸福を求めているといえよう。

幸福を望むことに例外がないということは，当たり前のことではない。

極めてまれなことである。

いわば，私たちは幸福を求めるように宿命づけられているといえよう。

とすれば，幸福こそ，私たちの人生の究極目的ではないだろうか。

私たち日本人は，日本国憲法によって，幸福追求に対する権利といった基本的人権が保障されている。公共の福祉に反しない範囲内において。

人間は一人では生きていけない社会的（**対他的**）存在であり，他者の幸福追求権に対しても責任を負う。

ゆえに，社会（**世界**）は，少数者だけに富みが集中する利己的システムが支配するものであってはならない。その行き着く先は，他者の幸福追求権を踏みにじることになるのだから。

私たちの社会（**世界**）は，だれもが不当に搾取されない幸福実現共同体である必要がある。

換言すれば，だれかの幸福追求のために，ほかのだれかの幸福追求権が犠牲に供されるような社会（**世界**）であってはならない。

私たちはすでに歴史から教訓を学んでいるのではないだろうか。

暴君が支配する社会は，あこぎで野蛮なものだということを。

そういう専制（**独裁**）政治においては，少数の幸福の追求のために，その他大勢の幸福追求権が犠牲に供されているのだから。

それならば，物質や金銭を国際金融資本家といった一部の人間が独占し，そのためにだれかが飢え死にするような現実はどうか。

形は違えども，同じく野蛮で異常なものであるといえよう。

私たちが構築すべきシステムや価値観は，少数者しか幸福を追求できないものであってはならない。

すべての人たちの幸福追求権が担保されるにものである必要がある。

それは，けっして利己主義（**物質的価値中心主義，拝金主義**）によって実現されるものではありえない。

愛（**慈悲，精神的価値中心主義，利他主義**）によってこそ現実化するものであるといえよう。

## 引用文献

(01) 日本の 10 月の自殺者，年間の新型コロナ死者上回る　女性の増加顕著．(2020.12.1)．CNN.co.jp.
(https://www.cnn.co.jp/world/35163196.html)．(2020.12.3 取得)．

(02)「お母さん，ごめんなさい……」渋谷・女性ホームレス殺人“46 歳犯人”はマザコン・クレーマー．(2020.12.5)．「週刊文春」編集部．(https://bunshun.jp/articles/-/42000)．(2020.12.11 取得)．

(03)《渋谷・ホームレス殴殺事件》資産家で有名クレーマーの容疑者，母との“異様な関係”．(2020.12.1)．週刊女性 PRIME．(https://www.jprime.jp/articles/-/19496)．(2020.12.11 取得)．

(04) 雨宮処凛．渋谷・女性ホームレス殺害～「痛い思いをさせればいなくなる」を地でいくこの社会．(2020.11.25)．(https://maga9.jp/201125-1/)．(2020.12.11 取得)．

(05)「目障りだった」が犯行動機……渋谷「女性ホームレス殺人」で逮捕された 46 歳男の正体．(2020.11.21)．デイリー新潮．
(https://news.goo.ne.jp/article/dailyshincho/nation/dailyshincho-682527.html)．(2020.12.11 取得)．

(06) 渡辺豪．渋谷女性ホームレス死亡事件「決して怠け者ではない」素顔　困窮者見えにくい“排除アート”の影響．(2020.12.11)．AERA．
(https://dot.asahi.com/aera/2020121000053.html?page=1)．(2020.12.11 取得)．

(07) 山本和樹．《渋谷ホームレス殺人》“所持金 8 円”被害女性の謎を解いた「名刺大メモ」と「電源の入らない携帯電話」．(2020.11.26)．「週刊文春」編集部．
(https://bunshun.jp/articles/-/41784)．(2020.12.11 取得)．

(08) 伊藤真．(2010.5.3)．伊藤真の法学入門．日本評論社．
伊藤真．(2010.3.15)．伊藤真の憲法入門　第 4 版．日本評論社．

(09) 今野勉．(2011.8.10)．金子みすゞ　ふたたび．小学館．

(10) 東京 HIV 訴訟弁護団［編］．(2002.8)．薬害エイズ裁判史　第 5 巻　薬害根絶編．日本評論社．

(11) 松村被告に禁固 3 年求刑　検察側「危険承知で無為無策」．(2000.12.28)．読売新聞．27：5．

(12) 松村元課長「汚染はないんだ」面会患者に　回収要求耳かさず．(1996.10.5)．朝日新聞，34：4-7．

(13) 原田正純．(1989.6)．水俣が映す世界．日本評論社．
浜六郎．(1996.11)．薬害はなぜなくならないか．日本評論社．

(14) 濤川栄太．(2007.2)．心を鍛える偉人伝．中経出版．

(15) Mother Teresa/Edited by Jaya Chaliha & Edward Le Joly ／いなます　みかこ　訳．(2000.6)．マザー・テレサ　日々のことば．女子パウロ会．

(16) zakzak．(2014.3.26)．【中村うさぎ】昨年 3 度も死にかけた…．
(http://www.zakzak.co.jp/people/news/20140325/peo1403251736000-n2.htm)．(2014.3.26 取得)．

(17) José Luis González - Balado & Janet N. Playfoot ／山崎康臣　訳．(1998)．マザー・テレサの「愛」という仕事．青春出版社．

(18) アインシュタイン／弓場隆　訳．(2015.11.20)．アインシュタインの言葉．ディスカヴァー・トゥエンティワン．

(19) セロ・ハタン他　編／長田雅子　訳．(2014.6.1)．ネルソン・マンデラ　未来を変える言葉．明石書店．

(20) Mother Teresa. Edited by Becky Benenate／Anselmo Mataix・奥谷俊介　訳．(1997.9)．マザー・テレサ　愛のこころ　最後の祈り．主婦の友社．

(21) Mother Teresa. Edited by José Luis González & Balado／渡辺和子　訳．(1997.2)．マザー・テレサ　愛と祈りのことば．PHP 研究所．

(22) 鈴木秀子．(1999.6)．愛と癒しのコミュニオン．文藝春秋．

(23) 神渡良平．(1997.11)．マザー・テレサへの旅路．サンマーク出版．

(24) 紀野一義．(1967.10)．いのちの風光　現代に生きる仏教．筑摩書房．

# Japanese things left behind

ENDOH Hitoshi

## Abstract

The new coronavirus (Cobit 19) has caused various social problems and has put many people in a predicament. Meanwhile, a tragic incident that symbolizes the values of modern people, including the Japanese, occured.

Starting with this case, in this paper, we will discuss the dignity and basic human rights of individuals in Article 13 of the Japanese Constitution, and examine the problems of typical modern values.

Finally, based on these, we explore the ideal society to aim for.